

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東雲第二保育園
施設所在地	江東区東雲2-4-4-103
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界との出会い（異文化コミュニケーションを通して）

<テーマの設定理由>

文化や言葉の違いがあっても、外国の友達や保護者に対して子どもたちが笑顔で関わる姿が見られた。こうした姿から、互いを思いやり受け入れる心を育むことの大切さを改めて感じた。そこで、さまざまな文化に触れる機会を設け、交流を通して世界と出会う楽しさを子どもたちが実感できるきっかけづくりを行いたいと考えた。

2. 活動スケジュール

6月より、園全体で異文化コミュニケーションに力を入れたカリキュラムを開始した。世界共通語である英語に自然と親しめるよう、各クラスにおいて30分間のあそびの時間を設定した。また、4・5歳児クラスでは、日常的に英語に触れられるよう、毎日15分間の英語単語に親しむ時間を設けた。その他のクラスでも、遊具や音楽活動などを通して、英語を楽しみながら体験できる機会をつくった。さらに、9月にはバスを借り上げて年長児が「プレイパーク エリック・カール」へ出かけ、異国の絵本の世界を体験する機会を設けた。子どもたちは海外文化への関心を高めるとともに、想像の世界を広げる貴重な経験となった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スクリーンを使用した英語ダンスの活動では、子どもたちが音楽に合わせて身体を動かしながら英語に触れる姿が見られた。視覚・聴覚・身体感覚を組み合わせることで、英語の音やリズムに自然と親しむことができ、楽しみながら異文化への興味を深める機会となった。

また、英語に触れる環境をより豊かにするため、英語関連の遊具（絵本、紙芝居、CD、DVD、かるた、パズル、積み木、音の出る遊具など）を追加で購入した。これにより、子どもたちは遊びの中で自ら英語に触れ、興味を深めることができるようになった。さらに、身体を動かしながら異文化交流を体験で

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

イギリスの先生とカードゲームをしたり、一緒にダンスをしたりしてコミュニケーションをとった。子どもたちが日本の踊りを見せてあげたいと発案があれば、披露をしたりして関係が密になっていき、異国の人に対して抵抗がなくなっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

異国の先生とは、カードゲームを通じた遊びや一緒にダンスを楽しむ活動を行い、子どもたちは英語を使いながら積極的にコミュニケーションを取ることができた。また、活動の中で子どもたちから「日本の踊りを見せたい」という提案があり、自発的に披露する場を設けたことで、先生との関係がより親密になっていった。こうした交流を重ねる中で、子どもたちは異国の人に対する抵抗感が次第に薄れ、相手を受け入れようとする姿勢が育まれていった。文化の違いを越えて楽しみながら関わる経験は、異文化理解の基盤づくりとして大変有意義であった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当初は緊張した様子も見られ、子どもたちは講師をじっと見つめるだけで言葉が出ないこともあった。しかし、回数を重ねるにつれて徐々に表情が和らぎ、笑顔や自発的な発言が増えていった。言語が異なる相手であっても、子どもたちは大きな壁を感じることなく、異文化コミュニケーションの時間を積極的に楽しむ姿が見られるようになった。また、「異文化コミュニケーションの日」を毎週心待ちにしており、「いつ来るの?」と講師の訪問を楽しみにする声も増えてきている。昨年度から継続して異文化に触れてきたことで親しみが生まれ、以前よりも声を出して関わろうとする姿が多く見られるようになった。最近では、自分から“Let's play!”と声をかけて遊びに誘うなど、積極的なコミュニケーションにつながる場面も増えている。